



不思議だと思ふこと などを解さうと思ふこと

校長 中村 純治

ノーベル化学賞を受賞した吉野 彰さんは受賞直後のインタビューで、ご自身の受賞を面白い話題として、子供に一つのきっかけを送りたいと話されました。「柔軟性と執着心」。探すしかないのだから、柔らかくしつつこく執念深く探すことだと。そして「いつか見つかるだろう」という楽観も必要だと話されました。



吉野さんは身の回りにある様々な電化製品に使われるリチウムイオン電池をつくったことを高く評価されました。リチウムイオン電池は何度も充電して使える電池です。電池の中で一極から十極にリチウムイオンが動き、電子機器に電気が流れます。充電のときには逆向きの流れになります。吉野さんはどんな材料なら小さくても沢山の電気を貯められる電池ができるか、その問題を解き明かしました。

リチウムイオン電池の開発は世の中を変えました。スマートフォンや音楽プレーヤーなど、小さく高機能な電子製品の他、小惑星探査機はやぶさ2にも使われています。吉野さんは「電池だけでは地球温暖化やエネルギー問題は解決しない。人工知能AIやインターネットと組み合わせるかどうか」と話されています。限りあるエネルギーの無駄遣いが減るように未来の社会はしていかなければならない。電池を積んだ電気自動車はAIによる自動運転になり、ネットで位置を伝え合いながらスムーズに走るようになっていくだろうと、これで渋滞によるエネルギーの無駄遣いを減らすのだというのです。



教育には「分からないな、不思議だな。」と思うこと、「分かりたいと思うこと、謎を解きたいと思うこと」この気持ちこそ大切だと感じます。私は平磯小学校の子供たちは、教員や大人から指示されたことをただ真面目に行う受け身の学び方だけに留まってほしくありません。日常生活の中で、自分で課題を課題を見つけ、創造的に生きていける力を育ててほしいと願います。日々の生活を送る中で生まれた疑問、思いを大切にしていけること、そして、その解決や実現のために努力を続けていくことの楽しさを味わってほしいと願っています。

「分かりたいと思うこと、謎を解きたいと思うこと」このような気持ちは、資源の少ない国「日本」に生きる私達にこそ、強く求められていると私は思います。考え工夫すること、未来を担う平っ子には、柔らかく、しつこく、頭の中を活性化させて考えることは楽しいことだと思える人になってほしいと思っています。たくさん考えて行動する、時には楽観的に俯瞰できるおおらかな部分も兼ね備えながら、平っ子が成長していく姿を想像するのが楽しみです。

「分かりたいと思うこと、謎を解きたいと思うこと」このような気持ちは、資源の少ない国「日本」に生きる私達にこそ、強く求められていると私は思います。考え工夫すること、未来を担う平っ子には、柔らかく、しつこく、頭の中を活性化させて考えることは楽しいことだと思える人になってほしいと思っています。たくさん考えて行動する、時には楽観的に俯瞰できるおおらかな部分も兼ね備えながら、平っ子が成長していく姿を想像するのが楽しみです。

合同持久走大会が 11月26日(火)に 開催されます

今年も、11月26日(火)に那珂湊運動公園で磯崎小学校との合同持久走大会を開催します。(雨天の際は、27日に順延です。)

子供たちは、10月21日から、月・水・金曜日にマラソンタイムを行うなど、持久走大会に向けての練習を始めました。

健康面でご心配がある場合は、過日、お知らせしたように、かかりつけ医などにご相談いただくとともに、対応を文書で担任までご連絡くださいますようお願いいたします。

ひたちなか市芸術祭 小中学校音楽会

10月23日(水)に実施された小中学校音楽会では、たくさんの保護者の皆様においでいただきまして、ありがとうございました。

平磯小学校は、例年5年生が音楽会に合唱で参加することになっています。今年は県芸術祭への参加もあるために6年生も参加しました。18日(金)には、4年生が中心になって盛大に壮行会が行われました。今年も、「愛を込めて花束を」を歌いました。伴奏は、黒澤千秋さんが行ってくれました。本校では、指揮を担当した飯山浩暢教諭の他にも、音楽主任の秋山彩矢香教諭や森永健教諭、佐川千佳子講師が指導に当たってきました。当日は、澄み切った声で、堂々と歌い上げてくれました。

